

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200242		
法人名	株式会社ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	松戸ナーシングヴィラそよ風		
所在地	千葉県松戸市常盤平5-24-2		
日評価作成	令和2年9月12日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

本情報リンク	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
--------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和2年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・2ユニットが並んでおり入居者様の行き来があり色々な方とコミュニケーションが図れる ・スタッフ全員ですべての入居者様をケアするようにしている(スタッフ同士も仲が良い) ・複合施設のため、デイサービスの催し物に参加できます ・3Fに有料老人ホームが併設されていて看護師が常駐しているので医療面において素早い対応が出来る 主治医との連携も上手く出来ている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 新京成線五香駅から徒歩5分の商店街に続く住宅街に立地した、鉄筋コンクリート造り3階建ての2階にあるグループホーム施設です。近くに公園、商店街があり訪問・買い物に便利な他、1階デイサービス、3階有料老人ホームの系列施設と防災訓練、各種行事、医療面等で効率的に運営しています。 2. 家庭的な雰囲気の中利用者本位のサービスに努めており、排泄、歩行、生活態度等で改善事例が見られる他、看取り体制もできており、今年も1名看取り家族から感謝されています。 3. 内科医の月2回訪問診療と24時間対応、看護師による毎日の健康チェック、日々館内散歩、レクリエーション等を行い、利用者の健康維持に努めています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、朝礼で唱和し各スタッフルームの目の付くところに貼ってあり、皆が意識して実践出来るように促している	地域密着を織り込んだ理念をスタッフルームに掲げ、職員は朝礼で唱和し、日頃のサービスで実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩等で外に出かける機会を持ち近隣のスーパーや商店に買い物へ行ったり納涼祭や餅つき、避難訓練の時などに声をかけている	従来は町内会行事(ゴミ掃除、桜まつり等)に積極的に参加する他、3施設合同開催の納涼祭や餅つきに、地域の住民や子供等が多数参加する他、各種ボランティアの受入れもしていました。現在はコロナ禍の為実施できず、散歩で近隣の商店に出かける程度です。	開設後8年以上経過している状況を考え、更に地域に貢献するように他の施設と合同で働きかける工夫(介護説明会・相談会、避難弱者の受入れ場所提供等)が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭や餅つきの際に声をかけ参加して頂く。、毎年秋に開催している文化祭には入居者が作成した作品を飾り観て頂いている(掲示版)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行政の担当者も参加し、運営推進会議を行っており、状況報告をしたり、反対に情報を頂いている 今年度はコロナの関係で書面にての開催	会議は2か月に1回(コロナ禍のため4, 6, 8月は書面で実施)、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、介護相談員、他の施設の管理者、医師、職員で開催しています。議題は生活状況、ヒヤリハット・事故報告、行事予定、新型コロナ対策等を取り上げて話し合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方毎月来訪されている。市の担当の課とは相談できる体制を作っており、その内容の記録を残している 今年度は相談員の訪問は中止	従来は管理者が市担当に必要な都度説明、報告する他、市担当が出席するグループホーム協議会に出席し意見交換をしています。又運営推進会議には必ず地域包括支援センターに出席してもらい、その意見・情報を運営に役立てています。最近、行政機関の依頼に応え2名利用者を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に1回内部研修で身体拘束についての話し合いをしており、身体拘束をしないケアを確認している ユニット間の通路のドアは開放している	毎月の職員会議時に身体拘束適正化委員会を開催し、職員研修を同時実施し、職員への周知徹底を図っています。ユニット間は施錠せず、各階の通路・エレベーターには事故防止のため暗証番号を使用していますが、利用者の素振りを見て職員が声をかけ、館内散歩に連れ出す様にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県の高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修と社内での研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて勉強している 直近での成年後見制度の利用を開始する利用者がいた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおりに出来ている 契約時以外でも常に質問に対しては答えている 契約時以外でも疑問があれば返答している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族総会にて話し合う機会を設けている。入居者からは毎月訪問する介護相談員に話ができるようになっていく	利用者については日頃から聞いている他に介護相談員を受け入れ、家族からは訪問時、家族総会(年1回母の日に開催し、12名参加)、運営推進会議で意見・要望を聞いていますが、現在はコロナ禍のため外部の人の施設内への受け入れは中止しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションをとるようにして何でも言いやすい関係を作っている。毎月各ユニットでカンファをし、意見交換をしている。	管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを取れる雰囲気を作り、毎月のユニット会議で意見を聞き、運営に反映させています。施設長も年1回個人面談をしています。毎月併設3施設の三役会が開催される等、職員のチームワークが全館通じて良く取れている様に思われます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の通り心がけている 年に2回の昇格時には候補者に対してアドバイスをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社のさまざまな研修や外部の勉強会に参加している 施設内でも毎月研修を行うスケジュールをたっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム協議会に入っており、2カ月に1度交流を深めている。協議会に空室の情報を送っている		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に調査をして入居時にはプランを作成し提供するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と面談をし、家族の不安に耳を傾け要望を聞き、どのようなサービスが提供できるのか説明し納得して頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の必要なサービスを見極め、家族と相談しながらサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事や、入居前にしていた事を、継続してできるように支援し、助け合って生活をしている実感をもって頂くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、その都度相談をして、介護の方向性を共有できるようにし片方の立場に立たないように家族と共に支援する		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とのつながりは継続できるように面会の機会を多く持つよう進言し、在宅でいた時と同じような支援をしている	家族と一緒に墓参りや法事に出かけ、外食を共にしている人や、正月には実家に外出や外泊する人がいます。また入居前の近所の友人が訪れ、歓談しています。現在、家族面会は行政の指導もあり中止していますが、家族等の要望もあり、条件付き(時間限定・シールド越し等)での実施を検討しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者を探したり、ゲームをする時はスタッフがなるべく間に入り、会話がスムーズにできるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで対応している為、死亡退去が多く、これまでの関係を継続していく事は難しいが恒例の餅つきのお誘いをし毎年何名かの家族が来てお手伝いをしてきている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成前に意向を聞きながらプランに反映させ、ゆっくりではあるが本人の意向に沿うように支援している	意向の把握が難しい人は、普段の様子を良く見て判断しています。レクリエーション(流しソーメン、おやつバイキング等)を増やした事により、意外な面が見えたり、館内散歩等の身体を動かすレクリエーションも取り入れ、体力向上に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートに記入して頂く事により、以前の暮らしはどうかを確認している。また、分からない場合は家族に聞くように努め以前と変わらない生活スタイルを維持するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気付くよう、ひとりひとり気を配り、記録をしスタッフ全員で把握できるようにする		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変わりつづける利用者の状況に色々なアイデアを出し、プランの変更時には本人と家族の意見を聞きプランに反映させている	介護計画は、計画作成者を中心に、本人や家族の意向を尊重し、必要があれば医師や看護師と話し合い、職員全員で作成しています。3か月から半年でモニタリングを行い、見直しを行っています。また、体調変化時等には、随時の見直しもしています。	介護計画はきちんと作成していますが、家族アンケートでは家族に十分に伝わっていない様子が窺えます。家族に請求書等を郵送する時に、チェック方式で確認するなど、家族により良く伝わるような工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記入し、スタッフが全員目を通す事で情報を共有するとともにカンファレンスで確認をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人の状態を把握しプランを作成し、見直しや区分変更し、状態に応じた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内のプランにとらわれずに近隣のスーパーや商店に買い物へ行ったり、美容院に行ったりして施設内だけでなく地域の資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と主治医が今後の方針を話し合っている。また、心配事があれば、往診時に家族は同席し直接主治医から状況の説明をうけられるように手配をする	訪問診療医が月に2回訪れています。更に、必要があれば往診に来院してもらえます。この様に、何かあれば365日、24時間対応する体制が整備されていて、利用者に安心感があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日一回、看護師ラウンド時にその日のバイタルと、入居者の状況を報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応を病院の相談員等と行い、情報交換がスムーズに行くように、慣れたスタッフが行いその内容を申し送るようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の責任者が、主治医と相談し、個別に家族対応していくことで、徐々に家族の気持ちに整理がつけるように支援している。終末期に関することは事前に同意書ももらっている。	入居時に「看取りについての事前確認書」を交わしています。利用者及び家族に「終末期を迎えたい場所はどこですか？」「終末期には積極的な延命治療を望まれますか？」等、細かく本人の希望を把握しています。今年は、一名を看取り、家族から感謝されました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員もいるため、全てのスタッフは対応できないが、内部研修などで実践力を身につけるように努め流れを文章に明示してある。ADEの講習も受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練と避難訓練を行っている。消防訓練の参加により地域の消防署との関係を作っている	従来年2回消防署立ち合い訓練と自主訓練を併設3施設合同で実施していますが、今年度はコロナの為実施できず、実施方法を含め現在検討中です。一連の消防装置・機器は完備し、備蓄も5日分あり、災害用品(懐中電灯、卓上コンロ、オムツ等)も準備しています。地域の協力が難しいので、3施設での連絡会や非常時の職員の駆けつけ体制を築いています。	最近の各種大規模災害の頻発を考え、年1回災害避難訓練(ヘルメット・防災頭巾を全員分準備し、3階までの垂直避難)実施が望まれます。又昨年千葉県で台風による長期停電が発生したこともあり、備蓄品として発電機の追加購入や究極の避難先の検討等が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけには注意し、他利用者に悪い印象をもたれないように配慮している。社内研修でも接遇(言葉遣い)として行っている	利用者に対しては、基本的には「さん」付けで呼んでいます。特に本人の希望で下の名前や、ニックネームで呼んで欲しい人には要望に応じています。トイレ誘導の時には、他の利用者に聞こえないように羞恥心に配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を聞き、自己判断ができるように本人の意思を尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は、ある程度決まっているが、ご本人のペースに合わせてなるべく自由に過ごして頂いている 身体を休めたいときは日中でも居室で横になる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によるがご自分のこだわりで服を選んだり、散髪や髪染めもされている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にもよるが食器洗いや食器拭きや、簡単な調理は利用者をお願いしている。自らやって下さる方もいる。	朝と夕食は業者から人数分パックで届くので、利用者が分ける手伝いをしています。昼食は職員の手作りで、必要に応じてミキサー食を提供したり、利用者の希望するメニューを心がけています。年に数回、デザートバイキングの日を設け、利用者には喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を数値化し摂取量が少ない場合は、その日のスタッフ同士で共有して優先して摂取できるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前は必ず行っている。嚥下困難な利用者は、食後に口腔ケアを行っている 訪問歯科で口腔ケアを行っている人もいる		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便座での排泄が難しくなっても、なるべく一日に一回は便座に座って頂くようにしている。ミーティングでも安易にオムツを使用するのではなく工夫するよう指示は出ている	リハビリパンツを使用している人が一番多い現状です。入院中はリハビリパンツを使用していた人が退院してきた時に、本人の意向で数日で布パンツに改善した例があります。排泄パターンに即してトイレ誘導し、自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや寒天やオリゴ糖を使用し、薬に頼らないように工夫している トイレでは腹圧をかけてみる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい方を優先し、好きでない方には声かけや、タイミングなどの工夫はしている。順番通りに入れるのではなく本人の希望や状態を見て臨機応変に行っている	原則週2回、午前中に入浴支援を行っています。体調がすぐれない場合は、翌日に延ばしたり、清拭に切り代えています。ゆず湯、しょうぶ湯、冬にはみかん湯などにして、入浴が楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者にあわせて、安眠できるような環境を整える		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は申し送りノートに記入しスタッフ全員が理解できるようにしている。朝・昼・夕の薬を入れるケースに、個々の薬の名前や個数が記入してありダブルチェックで確認しながら与薬している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅に居た時のように季節ごとにイベントを設けて、食事などを工夫したりたまに外食も行っている。趣味を持っている方には自由にやっていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの状況にもよるが、できる限り外に出たいという気持ちが維持できるように、四季を感じるよう外出支援を行っている。	家族(娘)が毎日のように母親を30分から1時間連れて散歩に出かけている人がいます。行事計画は毎月立てていますが、全部は実行できていません。秋には希望した利用者9人と車でぶどう狩りに出かけ、一緒に楽しいひと時を過ごしました。	

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、百合、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しっかりと管理できる場合は、家族が紛失した場合のリスクを納得して頂いたうえで所持しているが、それ以外の方は、小銭程度しか所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より事前に許可を貰ってる人とは交流を了承している場合のみ電話連絡を行っている。携帯電話を所持している方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故の事も考え、あまり物は置かず、シンプルで安心出来る空間を作っている。季節感(節句・鯉のぼり・七夕・クリスマス・神社)を出すような飾り付けを行うようにしている	リビング兼食堂は、清潔で、広く、季節柄温度・湿度も調節され、利用者が快適に過ごせる様になっています。又2ユニットが縦につながっており、今回のコロナにより運動不足は、館内散歩で大分解消されている他、各種レクリエーション(流しソーメン、おやつバイキング等)で比較的元気にすごしています。職員は、今回のコロナ対策で手洗い・消毒2回/日(トイレ、部屋、共有部分、テーブル、スイッチ、ドアノブ等全箇所)を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニット自由に行き来できるように、夜間以外施錠していない。入居者同士で運動がてら他ユニットまで歩かれたり、スタッフが付き添い遊びに行くなどして交流をもつようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に写真等の馴染みの物を持ってきていただけるように説明して、居室に置いている	エアコン・クローゼット、ベッドが備え付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が居心地よく過ごせる様に配慮されています。コロナ禍のため居室への立ち入りは控えましたが、管理者によれば、利用者・家族の思いで、仏壇や折り紙が壁一杯に貼られている部屋もあるということです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなってしまう方にはドアの見やすい所に名前を付けたりトイレの案内も大きな文字で表示し工夫をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200242		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	松戸ナーシングヴィラそよ風		
所在地	千葉県松戸市常盤平5-24-2		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・2ユニットが並んでおり入居者様の行き来があり色々な方とコミュニケーションが図れる ・スタッフ全員ですべての入居者様をケアするようにしている(スタッフ同士も仲が良い) ・複合施設のため、デイサービスの催し物に参加できます ・3Fに有料老人ホームが併設されていて看護師が常駐しているので医療面において素早い対応が出来る <p>主治医との連携も上手く出来ている</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和2年10月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (コスモス)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各スタッフルームの目の付くところに貼ってあり、皆が意識して実践出来るように、促している ミーティングでも確認している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーや商店に買い物へ行ったり納涼祭や避難訓練の時などに声をかけている 今年はず会行事が中止となっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや餅つきの時に声をかけをしている 今年の夏祭りは各サービスごとに規模を縮小して開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方及び行政の担当者の参加を得て2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、状況報告をしたり、逆に情報を頂いている 今年度は書面での開催		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方毎月来訪されており入居者の気持ちを伝えてくれている。市の担当の課とは相談できる体制を作るようにしている 相談員の来訪は中止となる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県身体拘束廃止の研修に参加しており、また内部研修で身体拘束についての話し合いを行い、身体拘束をしないケアを目指している ユニット間の通路のドアは開放してある		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員ではないが千葉県の高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を受けている。内部研修で勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおりに出来ている 契約時以外でも疑問があれば説明して納得してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族総会にて話し合う機会を設けている。入居者からは毎月くる介護相談員に話が出来るようになっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションをとるようにして何でも言いやすい関係を作っている。なるべく毎月各ユニットでカンファをし、意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	退職することがなく、長く務めることができるように、本人の希望を聞きながらシフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のさまざまな研修や外部の勉強会に時間を作って参加している 社内でも毎月研修を行いスキルアップしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム協議会に入っており、2カ月に1回交流を深めている。 他のGHの運営推進会議に出席し交流を深めている。空室情報を		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の思いや願いをお聞きして知った上で、コミュニケーションを深め信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定の時から、情報シートをもとに、家族と良く話し、要望等に応えるように努めている。ケアプランの更新時には再度、本人及び家族に希望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話す機会を設け、要望を入れるようにしている。入所する前に関わっていたケアマネや施設の相談員に情報をもらっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に寄り添い、人生の大先輩として尊敬して対応するよう努めている。家族には成れないが、そのような気持ちをもって対応をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、必ず電話をし、報告や相談をしている。面会の機会を持ってもらうように促し、面会時も必ず声をかけ、コミュニケーションを図っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へお連れ出来ないことが多いが、会話の中で思い出して楽しんでいただいている。職員も昔を思い出するような話をして回想してもらおう。お友達が来訪することもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を大切にしながら、孤立しないよう、職員が関わり、支援している。他ユニットの利用者とも交流できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去が主のため、家族との関係は断ち切られることが多いが今でも餅つきに退去された家族が参加してお手伝いをお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や日頃の様子から希望や意向の把握に努めているが、意思の疎通が困難な時、また十分でない場合は、ご家族にも相談している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人と家族とじっくり話し、なるべくその方に添った生活をして頂いている。馴染みの物を居室に置いたり環境を整えている。入居前に在宅のケアマネ等より情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな事でも今までと変化のあった事は、毎日の生活記録に記入し、その日に休んだ職員にも分かるようにし、個別の対応をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファにて計画作成者に情報を提供し、個人個人の課題やケアの仕方について話し合い、医療関係は主治医や看護師に相談をし現状に合ったケアを心がけている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の勤務者が電子媒体に記入し、特記は申し送りノートにも記入し他職員も必ず目を通すようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに気付くよう情報網をめぐらし型にはまらない対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ買い物に行ったり、お花見や紅葉狩り等に出かける事があるのでプランに載せている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、入居者全員に主治医が居て最低月に2回は往診をしてくれるので安心できる。入居後しばらくして主治医が家族と面談をするようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、看護師がラウンドし、その際に報告・相談も出来る。また夜間時や緊急の場合も連絡をすれば、すぐに来て貰える		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前にサマリーを渡し情報を送り、入院中も見舞いに行った時などに病院関係者と話し情報交換をし本人の状態を把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にターミナルの話はしてあり、ターミナルが来た時は、施設責任者と計画作成者と主治医も交え、家族と話す機会を設け、家族の意向を共有していくようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の年間スケジュールに組み込んで研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練と避難訓練を行っている。消防訓練の参加により地域の消防署との関係を作っている。水害時は外に避難するよりも建物に留まることも選択肢である		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護保険の趣旨(尊厳・自立)を理解して対応し言葉の暴力にならないように職員が努力している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を傾聴し判断ができるように意思を尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も就寝時間も決まっておらず個々のペースで過ごされるように個別の対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みのものを着ていただいている。ご自分で選べない方や間違えた着方をされた場合は、さりげなく支援している。髪染めをされるかたもいる。就寝時は着替えをする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳等その方に出来る事をしていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方にはゼリーを差し上げたり、果物でジュースを作ったりして工夫している。食べられない方には好物だけでも召し上がっていただいている。食事、水分量は記録をして把握をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じて、声掛けや介助を行っている。夕食後の口腔ケアと義歯の掃除を行っている。訪問歯科による口腔ケア義歯の調整等を受けている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要とされる方が増えてきたが、ご本人の気持ちに添って介助に入り、本人の状態によるがトイレでの排泄を心掛けている。夜間も排泄の習性を考慮し巡視毎に睡眠を妨げるので交換をしない		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然に出るよう飲料にオリゴ糖を使用したり乳酸菌飲料を飲んで頂いている。排便サイクルを把握し適切に処置をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜の入浴は難しいが、なるべくご本人の希望に沿うようにする、また入浴を好まない方には時間を置いたり声のかけ方を工夫している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠不足の方には日中に声かけし臥床して頂いている。個々の訴えにより冷暖房調整や湯たんぽを使用している。消灯時間は無く好きな時間に入眠して頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は申し送りノートに記入しスタッフ全員が理解できるようにしている。朝・昼・夕の薬を入れるケースに、個々の薬の名前や個数が記入し確認しながら与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のお好きな事をしていただける様、散歩や歌、軽い運動等行っている。将棋の相手をデイサービスの利用者をお願いする時もある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等外出するように努めている、またご家族と一緒に外出も勧めている。今年はウィルスが終息するまでは外出は遠慮していただいている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば家族の理解も得て、所持して頂いているが管理能力が難しい方はトラブルを避けるために所持は避けるようにしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の要求がある方には家族の協力により定期的に電話をして不安感を解消している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故の事も考え、障害物なるような物は置かず、シンプルで安心出来る空間を作っている。季節感を出すような飾り付けを行うようにして楽しんでもらっている			
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には静かに過ごせる空間もある			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族にお願いして、使用されていた家具等を持参していただいている。食器類も家で使用されていたものを持参して以前と同じような生活を継続している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	改装した建物の為、それがなされていないところもあるが、物の配置等を工夫して安全な環境を作っている。トイレの場所も大きく明示してある			